

Y10a 相模原市の金環日食：地域連携型観望会の結果報告

高木 俊暢、宇津巻 竜也、細田 聡、阪本 成一 (宇宙航空研究開発機構)

2012年5月21日の金環日食当日、JAXA 相模原キャンパスのある神奈川県相模原市では、登校時の児童の交通安全を鑑みて市内の全75校の小学校で登校時間の調整が行われた。この内の57校が登校時間を早めて、全校生徒での観望会を開くという全国的にも類がない積極的な対応がなされた。結果として約3万人の大規模な観望会となり、メディアにも大きく取り上げられた。

この大規模な観望会実現への原動力としては、173年ぶりの金環日食に加えて、小惑星探査機「はやぶさ」がもたらした社会的なムーブメントを受け、相模原市が「宇宙」をキーワードに町おこしを行っていることが挙げられる。またJAXA側に、地域に貢献したいと強く願う職員が多数いたことや、市との間に密接な連携と信頼関係が構築されていたことも重要であった。

JAXA側は、宇宙教育の一環として、子ども達に宇宙を身近に感じてもらうことを目的に、企画の立案、安全・指導演などに関する教員研修、教材提供や講師派遣等を行った。教員研修では、各学校から代表者に出席していただき、資料の共有や安全指導の徹底を図った。相模原市が小学生3.8万人分の日食メガネを用意する一方で、JAXA側は、教育委員会を通して市内の小中学校の全校生徒5.7万人に教材を配布した。このように、地方行政と密に連携することで宇宙教育の新たな可能性を示した。

今回の金環日食を経験して、1-6年生と能力的に大きな開きのある子ども達の宇宙観がどのように変わったのか、教育現場に専門家の経験や知識のどんな部分が還元されたかなどが、教育的な観点から重要である。本講演では、当日の現場を担当していた多くの教職員のご協力をもとに行った調査結果についても報告する。